

原油市場展望

2024年10月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

目次

◆現状・見通し……………p. 2

◆トピック……………p. 3

メルマガ	X (旧Twitter)	YouTube
 <p>経済・政策情報メールマガジン</p>	 <p>日本総研調査部X (旧Twitter)</p>	 <p>日本総研YouTube</p>

調査部 マクロ経済研究センター (米欧経済グループ)

研究員 梶野 裕貴 (Tel: 070-3344-2620 Mail: togano.yuki@jri.co.jp)

- ◆本資料は2024年10月8日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆「[経済・政策情報メールマガジン](#)」、「[X \(旧Twitter\)](#)」、「[YouTube](#)」でも情報を発信しています。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

原油価格見通し：70ドル台を中心に推移

◆現状：70ドル台に上昇

2024年9月のWTI原油先物価格は、上旬に60ドル台半ばに低下。リビアでの中銀人事を巡る政治合意の成立による紛争回避を受けて原油供給懸念が和らいだほか、軟調な経済指標を受けて中国需要の伸び悩みが意識されたことが背景。

中旬には、70ドル台前半に上昇。①FRBの大幅利下げが米国景気を下支えするとの見方が強まったこと、②イスラエルがレバノンの親イラン民兵組織ヒズボラへの攻撃を強めたこと、等が価格を押し上げ。

下旬には、60ドル台後半に低下。サウジアラビアが12月から増産に転じるとの観測が強まったことが主因。もっとも、10月入り後には、イスラエルによるヒズボラの指導者暗殺やレバノンへの地上侵攻を受けて、イランがイスラエルを直接攻撃する等、中東情勢が緊迫化。原油価格は一時70ドル台後半に急騰。

◆投機筋の動きは慎重化

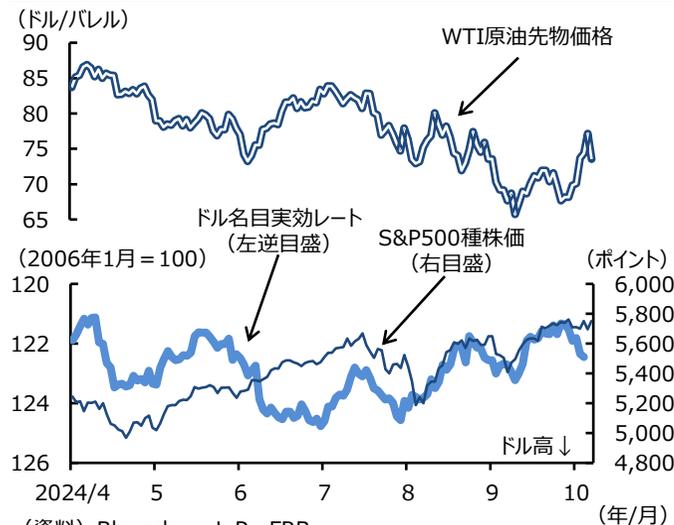
投機筋の買い越し幅は概ね横ばい。中国景気に対する悲観的な見方が強まる一方、中東情勢が緊迫化していることが背景。

◆見通し：70ドル台を中心に推移

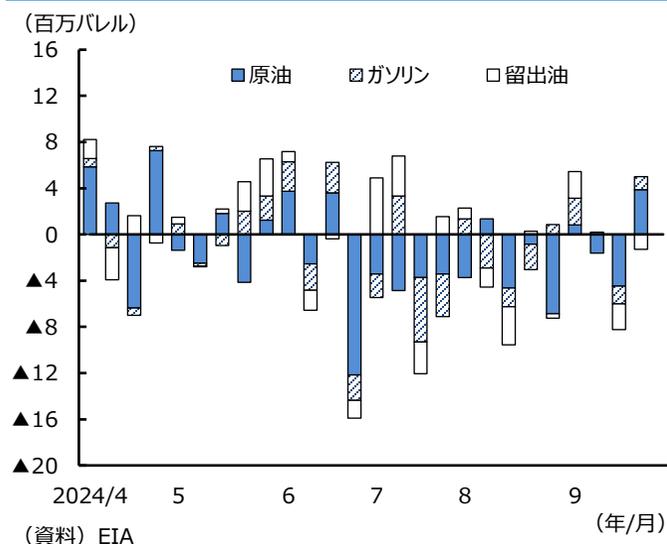
先行きを展望すると、原油価格は70ドル台を中心に推移する見込み。地政学的リスクに対する警戒が当面の価格押し上げ要因。

来年入り後は、米欧などで利下げ効果の発現により景気が上向くものの、OPECプラスによる供給増加を受けて、価格下落圧力が優勢となる見込み。

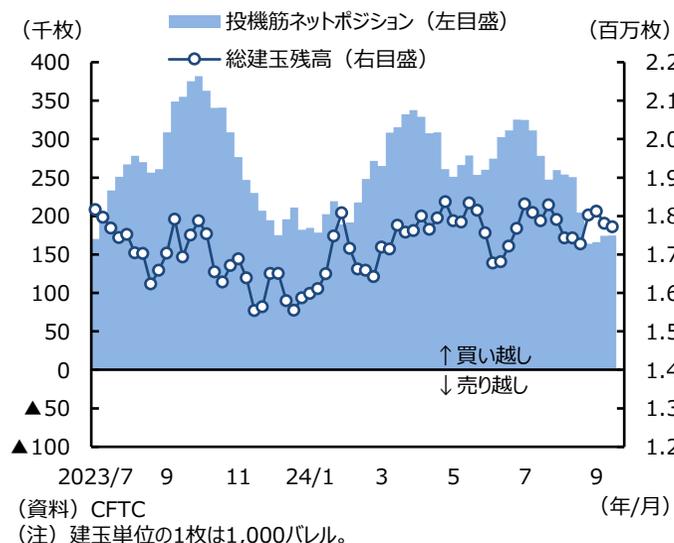
原油価格と株価・為替レート



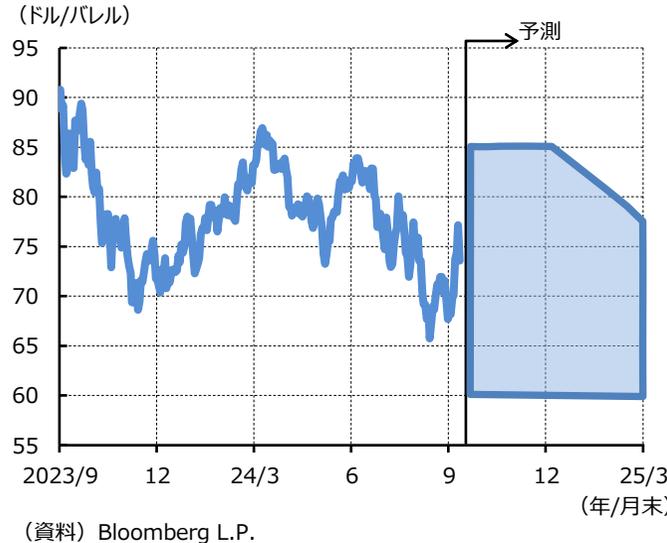
米国の原油・石油製品在庫 (前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



◆OPECプラスは12月から減産縮小へ

OPECプラスは、10月2日の会合で、現行の減産計画の維持を決定。これを受けて、サウジアラビアなど8カ国が行っている日量220万バレルの自主減産は、12月から段階的に縮小される見込み。

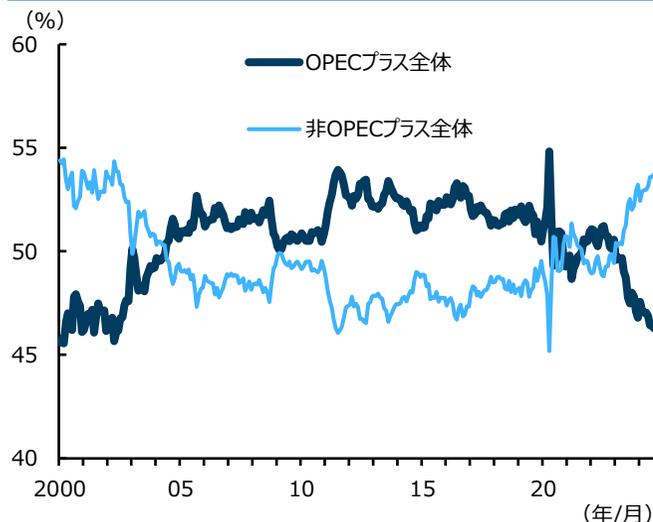
OPECプラスが減産縮小に動く背景として、生産シェアの大幅な低下が指摘可能。OPECプラス非加盟国の供給増加により、OPECプラスの生産シェアは40%台半ばまで低下。米国などが原油増産を続けるなか、OPECプラスが減産しても原油価格は上昇せず。足元の原油価格は、主要産油国の財政収支を均衡させる水準に届いておらず、OPECプラスは減産縮小による量の拡大によって財政悪化を少しでも回避したい考え。

加えて、中国など主要消費国の需要回復が当面見通せないこともシェア優先の一因に。中国の4～6月期の実質GDP成長率は前期から低下したほか、9月の製造業PMIは節目となる50を下回っており、先行きも経済成長率は低位で推移する可能性。

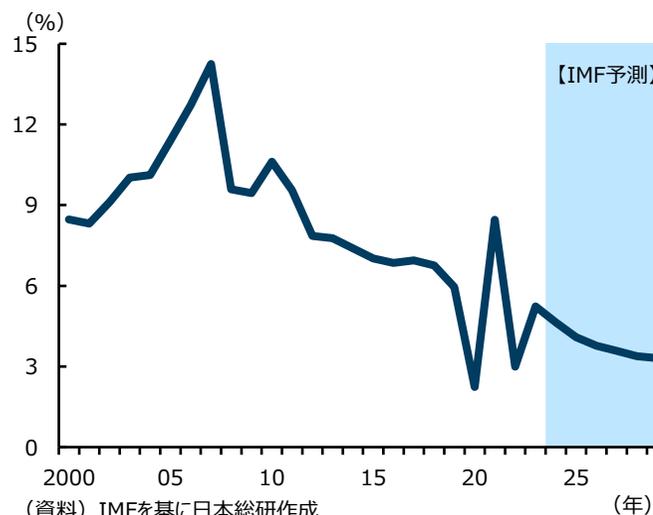
◆大幅な価格下落圧力を生む可能性

仮に、OPECプラスが非加盟国を上回る市場シェアの確保に動く場合、原油価格には大幅な下押し圧力が生じる見通し。OPECプラスのシェアを5割まで回復させる場合、現行の減産（日量566万バレル）を完全に終了することに加えて、日量+140万バレル程度の追加増産が必要に。

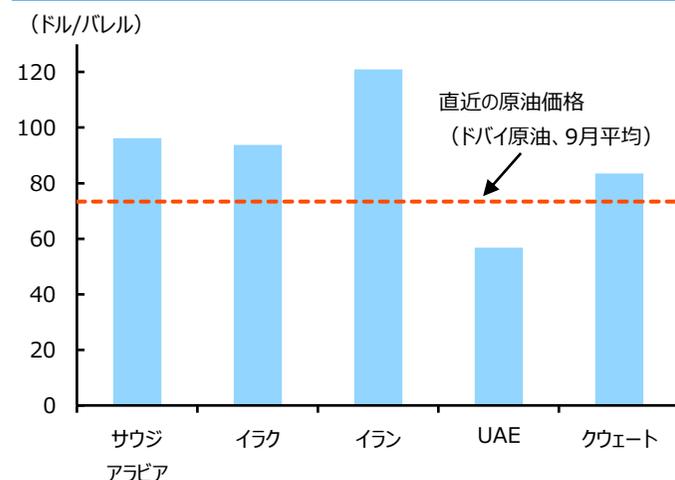
世界の原油生産に占めるシェア（EIAベース）



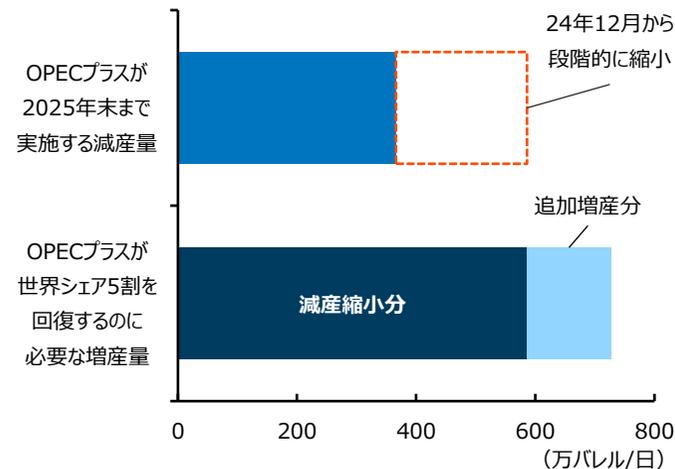
中国の実質GDP成長率（前年比）



財政収支を均衡させる原油価格（OPEC主要国）



OPECプラスの減産量と市場シェア回復に必要な増産量



公表済みのレポート（欧米経済関連）

詳細は、以下のリンクからPDF形式でご覧いただけます。

リサーチアイ

- ▶ [ハリス米大統領候補の環境政策は原油価格を下押し](#) 梶野裕貴 9月13日
- ▶ [対中関税発効でも苦境が続く欧州自動車メーカー — 東欧での中国製EV生産拡大や、消費者の低価格志向が引き続き逆風 —](#) 朱雀愛海 9月5日
- ▶ [ハリス米大統領候補の食品価格規制案は企業部門に副作用 — インフレ抑制効果も見込み薄 —](#) 松田健太郎 9月5日

JRIレビュー

- ▶ [アメリカ経済見通し（2024～25年）](#) 立石宗一郎
松田健太郎 7月4日
- ▶ [欧州経済見通し（2024～25年）](#) 藤本一輝
朱雀愛海 6月28日

リサーチフォーカス

- ▶ [ハリス氏の食品価格の規制案、副作用大 — 関連企業の収益を圧迫、供給不足によるインフレ再燃も —](#) 松田健太郎 10月7日
- ▶ [大統領選後の米国環境・エネルギー政策とわが国に求められる取り組み～トランプ／ハリス 両ケースのシナリオ分析から～](#) 梶野裕貴 9月9日